

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
三次市立三次小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	1	1	2	2	2	1	9	2	11

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
算数	5	2	5	10	
算数	6	1	5	5	
外国語	5	2	2	4	
外国語	6	1	2	2	

授業時数 計 21 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	

授業時数 計 0 (b)

授業時数 合計 21 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1	
6年 1組 (担任: A)	A	B	B	推進	専科	C	C	C	A	推進	A	A	A
教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1	
5年 1組 (担任: B)	A	B	B	推進	専科	C	C	C	B	推進	B	B	B
5年 2組 (担任: C)	A	B	B	推進	専科	C	C	C	C	推進	C	C	C

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数	授業時数の合計
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	32	A	5-1	国語	4	8	10.6	18.6
			5-2	国語	4			
5-1	21	B	6-1	書写	1	7.9	10.5	18.4
			5-2	書写	1			
			6-1	社会	3			
			5-2	社会	2.9			
5-2	21	C	6-1	音楽	1.4	8.9	11.1	20
			5-1	音楽	1.4			
			6-1	図工	1.4			
			5-1	図工	1.4			
			6-1	家庭	1.6			
			5-1	家庭	1.7			

5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉	
①	教科によって、学年間で連携を図り、授業を展開した。また、担当教科について、教材研究や教材準備をする時間を確保し、授業を行った。
②	空き時間がある教員が、児童対応を行ったり、学力補充を行ったりした。
③	中学校教員による教科指導を行ったり、中学校の授業を見通して、各教科の準備物や、テストの時期などを児童が担当教員に聞き、学級内に伝えることができるよう当番活動を工夫したりした。また、教職員同士で中学校での生徒の学習のつまずきや生活態度などを交流し、指導に生かした。
④	高学年の週案を一括で推進教師が作成した。

〈成果〉	
①	<p>○教材研究や準備が充実したことで、クラスの実態に合わせた授業展開をすることができた。合わせて学習のつまずきを把握する時間も確保できた。その結果、多くの児童が2学期末テストにおいて正答率70%以上を達成することができた。また、三次市学力到達度検査(算数数)においては、5・6年生ともに市平均以上の正答率であり、目標指標を達成することができた。</p> <p>【学期末テスト正答率70%以上の児童】 ・2学期末テスト正答率70%以上の児童 ⇒5年生 85.3% ⇒6年生 96.8%</p> <p>【三次市学力到達度検査 算数科】 ⇒5年生 79.1(市平均71.3) ⇒6年生 81.8(市平均78.8)</p> <p>○教科担任制の授業について、児童から肯定的な回答が見られた。 【令和8年1月実施児童アンケート「教科担任制になってよかったと思う」における児童の回答例】 ⇒「それぞれの先生が得意な教科を担当してくれているのでわかりやすい。」 「授業がより分かりやすく楽しくなった。」</p>
②	<p>○多数の教員で児童の状況を把握することや、児童への指導を行うことができた。 ○学級担任以外の様々な教員が関わることを肯定的に捉える児童の回答が見られた。 【令和8年1月実施児童アンケート「教科担任制になってよかったと思う」における児童の回答例】 ⇒「いろいろな先生にほめられるとうれしい。」 「担任以外でも話す先生が増えた。」</p>
③	<p>○児童は、中学校へのイメージを具体的にもち、自分たちで準備・行動する姿が見られた。 ○教職員は、中学校での学習のつまずきを考え、授業の計画を立てることができた。</p>
④	一括で作成することにより、教科の重なりや偏りができるだけないように計画をすることができた。

〈課題〉	
①	学習規律についてクラス間での差が見られた。
③	
②	担任が児童の指導にあたるタイミングが難しくなった。
④	行事等の際に、授業交換や時間割作成が難しい。

〈対策〉	
①	複数の教員で学習や生活の規律を共有し、一貫した指導をしていく。また、児童に教科担任制の目的を伝えたり、自分の目標をもち授業に取り組むことができるように指導したりしていく。
③	
②	高学年部で、児童の様子等を連携し、指導に生かす。
④	週案作成の際、高学年の時間割をホワイトボードにも記することで、時間割変更があったときに、一目で全職員が確認できるようにしていく。